

【指導案作成の目的】

- 1 授業者が、単元や本時の目標やねらいを確認し、単元の構想や本時の指導案をたてるため。また、そのことで**授業・単元のデザイン力**をつけていく。
- 2 授業者が、自校の研究に沿った授業づくりを考えるため。
- 3 事前検討や協議会において、単元や本時の指導について、協議や検討したりしやすくするため。

【指導案の形式】

- 1 単元の構想、本時の指導の概略がわかるもの。
- 2 上記の「作成の目的」が達成されれば、各校の実態に応じたものでよい。
- 3 下記の例を参考にしてもよい。

※ 単元に入る前に、単元の指導を構想していることこそ自体が大切です。

新潟市立〇〇（小・中・高等）学校

第〇学年〇組 〇〇科 学習指導案

令和〇年〇月〇日（曜）第〇校時

（〇：〇〇～〇：〇〇）

指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元（題材）名 「〇〇〇〇〇〇」

- ・単元名を記述します。
- ・単元が大きな教科の場合、小単元で記述することも可能です。

2 単元（題材）の目標

- 【知識及び技能】
- 【思考力、判断力、表現力等】
- 【学びに向かう力、人間性等】

- ・児童生徒の実態を踏まえ、学習指導要領に記載されている目標や内容を基に単元で目指す姿を資質・能力ごとに設定します。

3 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
.....
.....
.....

- ・単元の評価規準は、学習を通して身に付けるべき資質・能力を明確にし、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を参考にしながら、各観点に即して設定します。右の二次元コードからダウンロードできます。
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>
- ・各観点の評価規準の数は、1～2程度に精選しましょう。文末は基本的に「～している」、主体的に学習に取り組む態度は「しようとしている」となります。



4 単元と指導の構想

- ・単元目標に向かい、どのように主体的対話的で深い学びの実現に迫るのか、ICT活用を含め、授業者の手立てや工夫について記述します。

5 単元の指導計画（全〇時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評 価		
		知	思	態
1	<例> ○（小数）÷（整数）の式の意味を理解する ・文章題を読む		○	・規準を満たしている児童（生徒）の様子を具体的に記述します。 ・学習指導要領の指導事項との対応を記号で記述します。

	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をつかむ ・自分なりの考えで問題を解く 				
2 本 時	 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・本時は太枠で囲みます。 </div>				
<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標達成のために学習活動をどのように構成していくのか、追究課題をどのように設定していくのかを検討します。 </div>		<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・単元全体を通して、各観点のバランスを考慮し、指導に当たることができるようにします。 ・1時間の授業で評価する観点は1～2に絞り、指導の重点化を図ります。 </div>			

6 本時の計画 (○時間目/全○時間)

(1) 本時のねらい

<例> ○○について①、△△することを通して②、□□することができる③。

- ・単元の目標を具体化し、この授業を終えた時に児童（生徒）がどのような姿になることが望ましいのか、どのような力が身に付いていけばよいのかを記述します。
- ◇ 「○○ について①」は、本時の学習内容や学習課題などについて記述します。
- ◇ 「△ △ することを通して②」は、目指す姿にするための活動や手立てを記述します。
- ◇ 「□ □ できる③」は、本時で目指す児童（生徒）の姿を記述します。

(2) 本時の構想

- ・ねらいの達成に向けて、具体的な手立てや指導上の留意事項を記述します。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童生徒の反応	■評価規準（観点／方法）・○留意点
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">導入</div> 1	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> 学習内容、教師の働きかけ、児童（生徒）の反応について記述します。 </div>	○ <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・指導上留意する点について記述します。 ☆ ICTの活用についても簡潔に記述する。 </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">展開</div> 2	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・児童（生徒）が主語になります。問題解決的な学習過程で、どんな活動を行うのかを、「1…する。」のように活動内容に番号を付けて記述します。 ・各学習活動にかかる時間を記述します。 </div>	○
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">終末</div> 3		■ <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準を書きます。その際、何に基づいて評価するかも記述します。 </div>

(4) 評価 (展開の「■評価（観点／方法）・○留意点」に沿って記述)。

- ・ねらいを達成した姿を、「おおむね満足できる状況（B）」について具体的な児童（生徒）の姿として記述します。
- ・何に基づいて評価するかを記述します。評価の観点は括弧内に記述します。